

## 令和 6 年度 自己点検評価報告書（保健医療学研究科）

### 全体的な状況と評価

保健医療学研究科は、大学の理念・目的の基に、「地域の保健医療を支える」を基本理念として、保健医療の分野に関してより高度で専門的な学術理論及び実践能力を修得するとともに、総合的な調整能力・指導力・教育力等を有する高度専門職業人を養成することにより、本県の保健医療関係職種の質の向上を図り、もって県民の生涯を通じた健康づくりと保健医療水準の向上に寄与することを教育研究上の目的としている。この目的を実現するため、研究科に携わる教職員（全員が保健科学部教職員と兼任）が保健科学部の活動とともに日々の教育・研究活動に取り組んでいる。本報告書では、これら教育活動を中心に研究科として自己点検評価した結果を報告する。

研究科では大学および法人が示す第三期中期目標の達成に取り組んでおり現在のところ順調に進捗していると考えている。また、大学基準に沿った教育についても概ね良好な状況で行えていると考えている。なお、中期目標にそった全項目（教育を含む）の自己点検評価の詳細は年度ごと、中期計画期間ごとの全項目の自己点検評価結果（業務実績報告書）に記している。

### 教育活動（教育課程・学習成果・学生の受け入れ）

教育課程・学習成果に関する看護学専攻・医療技術科学専攻の自己点検評価は以下のとおりであるが、いずれの専攻も、大学基準を満たした教育が展開できていると考えられる。現在、看護学専攻、医療技術科学専攻の学習（学修）成果の可視化に取り組んでいるが、在籍学生数が少ないために、個人の特定を避けた可視化には工夫が必要であると考えており、教学マネジメント委員会よりも課題とされているところである。新たな学習（学修）成果の可視化の開発など更なる取り組みが必要であると考えている。看護学専攻・医療技術科学専攻いずれも学生の受け入れ方針に従って公正な入試制度の下に学生の受け入れを行っており、研究科全体・看護学専攻・医療技術科学専攻いずれも、入学定員充足率、収容定員充足率は適切な範囲内で保たれている。本研究科では入学生の 95%以上が学位の取得が出来ており、学生の受け入れ方針に従った学生の選抜が継続的に出来ている状況を間接的に表していると考えている。

---

### 看護学専攻 自己点検報告書

#### 令和 6 年度看護学専攻 自己点検報告書

点検項目に対して、回答欄「はい・いいえ」のうち、該当するものを選択する。

回答欄「S・A1・A2・B」は、今年度を中心とした取り組みに該当するものを選択し、取り

組みの具体的な内容等について記入する。 ※注 「S・A1・A2・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A1：従来通り効果的に取り組むことができた、A2：改善に取り組み始めた、B：改善することができなかった」を意味する。

#### 教育課程・学習成果・学生の受け入れ

##### (1) 点検・評価項目における現状

##### 1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1 学科として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

##### 2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

2.1 教育課程の体系、教育内容を備えた教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

2.2 教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

2.3 教育理念、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証プロセスを具体的に説明してください。

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

専攻では、IR・評価委員会、R3 カリ・改善グループを今年度再編し、教育課程が適切に関連性をもって編成され、実施されているかの検証を行っている。学位授与方針と教育課程の編成・実施方針の関連性については、教学マネジメント委員会から提供された学修成果・教育成果データを基に、DP 修得について検討し、検討結果を集約した上で、分析評価報告書として看護学専攻長から教学マネジメント委員会に提出した。分析評価で課題に挙げた項目については、次年度以降引き続き改善を目指す。

昨年度の評価を踏まえて、今年度は教育に関する検証を強化したことから、前年度の A2 の評価を今年度は A1 とした。

3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.1 学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

大学院修士課程カリキュラムポリシーの下、令和3年度以降の入学生に対し、看護学専攻では「専門科目は、『専門共通』『専門分野』『特別研究』の3区分で構成している。①保健医療分野の高度専門職業人として、地域の保健医療に係る諸現象や他職種を理解し、視野の広い判断能力・指導力・管理力・教育力等を身に付ける上で基盤になる教育内容を、両専攻の院生がともに学び合うことでの相乗効果を期待し、研究科の「共通科目」として7科目を配置し、保健医療システム論、医療倫理学特論を必修科目としている。②これらの科目における協働学習や討論を通して培った視野の広がりや相互理解の深まり等を基盤とし、その上に、看護学の専門性を追究していくことを目指して、『専門共通』『専門分野』を設けている。③『専門共通』は看護学のいずれかの専門分野や特別研究を極めていくうえで、看護学として共通に学修する必要がある科目を配置し、個人のニーズに合わせて選択としている。④『専門分野』は、〈基盤看護〉、〈育成支援看護〉、〈成人看護〉、〈高齢者看護〉、〈精神看護〉、〈地域看護〉の6分野22科目で構成する。看護学専攻では、専門領域ごとに特論・演習を配し、ひとつの専門領域を系統的に深め、特別研究につなげていくことを意図し、研究しようとする領域については6単位以上、それ以外の専門科目(選択)から2単位以上を履修することとしている。⑤特論では、その専門領域における中心概念や理論およびその展開方法等、演習は事例検討やフィールドワーク、文献のクリティック等を通して学修した内容の理解を深化させるとともに、研究計画につなげ、院生を主体とする発表・討論を軸に進めるようにしている。⑥特別研究では、指導教員による個別指導を重ねながら、研究課題の探究から研究計画立案、発表会、研究の実施、中間報告会、論文作成、最終発表会と口頭試問のプロセスを経ることとし、これらを通して研究力の修得を図っている。⑦2年次には研究が中心となるよう1年次にできるだけ特別研究以外の科目を履修し、1年次後期からはそれと並行して研究計画に取り組めるよう履修指導を行っている。長期履修の場合も、選択する研究領域科目および研究方法に関わる科目を履修期間の前半に履修し、系統的にリサーチワークが行えるよう履修指導を行うようにしている。

3.2 学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

修士の能力育成の観点から、共通科目、専門共通と専門分野からなる専門科目を 1 年次に配置している。また、DP に示されている能力育成については、その要素を各種科目に配置し、1 年次の特別研究Ⅰで論文研究計画発表、2 年次の特別研究Ⅱで論文発表会を実施するなど、段階的に学修を積み重ね、専攻する専門分野の学修の集大成として特別研究により発展させ、修士学位論文の作成へとつながるカリキュラムを編成することで、カリキュラムの順次性・体系性を確保している。【研究科共通】

3.3 授業期間の適切な設定がされていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

大学院学則や規程に基づき、適切に実施している。【研究科共通】

※授業期間：大学院学則第 10 条および愛媛県立医療技術大学授業時限、授業時間及び授業期間を定める規程で適切に設定

3.4 単位制度の趣旨に沿った単位の設定がされていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り決めに基づき、授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な学びに要する時間として単位を設定し、単位及びその修得について明示している。【研究科共通】

※全学的な取り決め：大学設置基準第 21 条を準用することとなっているため、本学も、講義 1 単位 15 時間、演習 1 単位 30 時間を原則としている。

3.5 個々の授業科目の内容及び方法が設定されていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

シラバスに授業科目の内容及び方法を明示することを遵守し、設定している。

3.6 授業科目の位置づけ（必修、選択等）が適切ですか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

国の「大学における看護系人材養成の在り方検討会」でのモデルコアカリキュラムで提示された能力を修得した院生がさらに発展的に能力を育成できるように、健康に関連する現象の分析や構造化、リーダー的役割、科学的な探求方法や態度について、専攻の AP、CP、DP に位置付けたうえで、授業科目の位置づけを行っている。

3.7 各学位課程にふさわしい教育内容の設定がなされていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1 : 従来通り効果的に取り組むことができた

看護学としての共通科目として、看護研究方法論ⅠとⅡ、看護管理学特論、理論と看護実践論を1年次に配置し、専門分野や特別研究を極めるうえで基盤となる科目を学修できるように設定されている。続いて、専門領域ごとに特論・演習を配し、ひとつの専門領域を系統的に深め、特別研究につなげていけるように設定されている。

3.8 コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等ができていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1 : 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り決めに基づき、実施している。リサーチワークとしての修士論文の作成に重きをおき、授業内外での指導教員による個別指導に加えて、「修士学位論文研究計画発表会」「修士学位論文中間報告会」等を通じて、院生の調査・研究能力の向上を図っている。社会人学生がほとんどで長期履修制度を利用する院生が多い本専攻の状況を考慮して、リサーチワークの間隔は院生と話し合いながら、無理なく行えるように実施している。

※全学的な取り決め：授業科目のナンバリングを通して各授業の性格を可視化することによって、個々の院生がリサーチワークとも連動させながら、主体的なコースワークを選択し、研究能力を段階的に高めていくことができるように工夫している。また、「研究指導計画」を策定し、標準在籍期間におけるコースワーク・リサーチワークの大枠を明示している。

3.9 教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1 : 従来通り効果的に取り組むことができた

3.1 から 3.9 に示した通り、教育課程・教育内容の適切な提供、カリキュラムの順次性・体系性の確保、授業期間、単位、個々の授業科目の内容及び方法の設定等について専

攻として適切に行えていると評価し、教育課程の編成・実施方針に基づき各学位課程にふさわしい授業科目の開設と教育課程の体系的な編成に概ね効果的に取り組んでいる。以上のことについては、教学マネジメント委員会に本報告書にて報告し、同委員会から課題を指摘された場合には、IR・評価委員会を中心として課題についての検討や改善を図り、その結果を同報告書にて報告をしている。また、専攻長が同委員会にメンバーとして参加し、委員会で示された課題を専攻に持ち帰り報告し、改善に努めてその結果を報告するよう関わっている。

3.10 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

看護学専攻の方針に添って、共通科目、専門科目を通じてこれらの能力育成を自身で考える機会を提供している。また、非常勤講師や教育協力者による具体的な看護実践を聞く機会や、修了生による修了後の体験等についても共有できる場を提供している。

※看護学専攻の方針：修了後も看護実践の場においてリーダーまたは管理者、教育者として個人や集団を動かす力を身につけること、看護実践の質の向上に向けて問題意識を持ち、科学的に追求していく方法や態度を身につけられる。

4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

4.1 学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置がされていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

自主学習情報を記載した授業計画の立案と提示、自主学習を促す授業の実施、シラバスで明示した授業目標達成を図る成績評価や院生による授業評価の実施等を行い、院生の主体的な学修を各教員から促し、単位の実質化を図るための措置をしている。

4.2 シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等）についての措置を講じていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A2：改善に取り組み始めた

教務委員会によって設定されたシラバス内容を遵守し、授業内容とシラバスとの齟齬がないように各専門分野内で確認しながら実施している。学期末に実施される授業評価アンケートの結果は、各科目教員が確認し、DP 評価や授業評価を基に授業内容とシラバスの点検について実施している。また、特別研究ⅠやⅡでは、学内教員による相互参観授業を積極的に取り入れ、フィードバックを行っている。成績評価の基準については、より明確な示し方を引き続き検討する必要がある、前年度に引き続き今年度もA2の評価とした。

4.3 授業の内容、方法等を変更する場合における適切なシラバス改訂と学生への周知をしていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

社会人学生が多いという本専攻の状況に配慮し、教務委員会の取り決めにに基づき、院生の学修状況に応じて、DP等の達成に授業の内容や方法の変更が必要な場合は、必ず院生に対して改訂したシラバスを配布して周知・確認をしている。

4.4 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法が講じられていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

授業への主体的参加を促すため、各院生のニーズに合わせた授業履修ができるようにしている。また、特論等では授業形態に事例検討やフィールドワークを取り入れ、事例の多面的な検討や実践で得られた情報等を総括する機会等を多く設けている。他にも、反転授業、グループでの文献クリティークなどを取り入れ、教員と院生間、院生同士でのコミュニケーションを図りながら学習できるように講じている。

4.5 学習の進捗と学生の理解度の確認をしていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1:従来通り効果的に取り組むことができた

学習を適切に進捗できるように授業計画を立て、各授業時の開始時に前回の学習内容のフィードバックや院生からの質問時間を確保し、院生の理解度を確認している。また、学習の積み残しがないように、院生からは随時質問を受け付けて対応している。

4.6 授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導をしていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

入学前に 1 年次生対象のオリエンテーションを行い、大学での学び、カリキュラムの特徴や成り立ち、DP の説明などについてガイダンスを実施し、2 年次以降も毎年実施している。また、修了生が学習時間の使い方等などを紹介し、具体的なイメージをもてるように支援をしている。就業との両立については、大学院設置基準第 14 条特例を適用し、授業を夜間や土曜日・日曜日に実施し、研究指導教員が院生の研究テーマや能力を見極めながら、院生のニーズに対応し科目履修等の指導を行い、オンラインも適宜取り入れ指導をしている。

4.7 授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示をしていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

各講義では、シラバスに予習・復習に必要な標準時間を示し、授業時間外に行う学習についても明示して、院生の理解度を確認しながら指導を行っている。また、発話や具体的な質問に対して随時フィードバックを行い、演習や事前課題に対して、授業時内外に院生の学びのフィードバックを行うとともに、課題提出日の設定なども他の課題との重複で過重負荷がないように確認しながら行っている。

4.8 研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示とそれに基づく研究指導の実施をしていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り決めに基づき、実施している。また、修士論文研究計画発表会では隣接領域を含む教員が院生に対組織的かつ多面的な助言を行うなどして、研究指導にあたる機会も設けている。発表会では、院生が用意した研究計画を踏まえて、さらに掘り下げるべき点や欠落している点などを指摘して、論文の完成に向けた詳細なコメントを加えている。修士論文中間発表会では、修士課程 1 年生が発表会を運営し、自身が次年度に取り組むべき作業への具体的なイメージや論文執筆の要領を学べる機会を設け、全般的な指導に役立てている。修士論文中間発表会と修士学位論文発表会では、論文の内容を多数の教員で論評し合うことで、その質を高める効果を上げられている。

※全学的な取り決め：修士学位論文作成の手引き（研究指導計画及びスケジュール）で、指



導教員による各院生の能力や状況に応じた研究・学位論文執筆の個別指導計画書作成を定めている。

4.9 各専攻における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり（教育の実施内容・状況の把握等）ができていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

4.1 から 4.8 に示した通り、単位の実質化やシラバス内容や実施に関する措置、院生の能動的学習への促しや学習の進捗・理解度の確認、履修指導や適切なフィードバック、研究指導計画に基づいた研究指導等について専攻として適切に行っていると評価しており、院生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置について概ね効果的に取り組んでいる。これらのことについて、教学マネジメント委員会に本報告書にて報告し、課題があれば専攻に対して指摘とその改善が求められ、専攻は同委員会から指摘された課題に対して検討や改善を行い、その結果を本報告書で報告するようにしている。また、2024 年版学修成果・教育成果データを基に、DP 修得や教育の目標達成について分析を行い、専攻長から教学マネジメント委員会に分析評価報告書として報告し、全学内部質保証推進組織と連携している。

5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

5.1 単位制度の趣旨に基づく単位認定をしていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

大学院学則に基づき、適切に行っている。シラバスに明示した各科目の成績評価の方法と基準に従って、講義や演習など授業形態に応じてレポートなどの結果で成績評価が行われている。【研究科共通】

※成績評価や単位認定：大学院学則 26、27 条にて規程

5.2 既修得単位等の適切な認定をしていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

大学院学則に基づき、科目責任者や教務委員会による審議のもと、本学科の学習目的を達成している場合は認定を行うしくみを整えているが、これまで該当例はない。【研究科共通】

※他大学等での既修得単位：大学院学則第 29 条にて規程

5.3 成績評価の客観性、厳格性、公正性を担保するための措置は講じていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

成績評価の方法と基準はシラバスに明示し、それらに従って講義や演習など授業形態に応じて試験やレポートなどの結果で成績評価を行っている。論文作成については、本専攻は主指導教員の他に副指導教員を配置することを基本としており、複数人での成績評価により担保している。また、各教員が担当授業の成績評価を検証できるように、教学マネジメント委員会が学修成果・教育成果データとして専攻別 GPA 集計表を配付し、教員は自身の授業科目を評価し、成績評価の客観性、厳格性、公正性を担保するための措置を講じている。

5.4 修了要件を明示していますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

修了要件は、大学院学則第 37 条に明示するとともに、各学年次の開始時に学生生活の手引きを配布し、文面を用いて口頭でガイダンスを実施し、ホームページ上で明示している。また、学位授与方針を念頭に置いて、指導教員による日常的な個別指導を周到に行うとともに、学位論文および最終試験の審査基準を院生に周知させ、十分かつ具体的な理解が行きわたるよう適切に指導している。【研究科共通】

5.5 成績評価及び単位認定に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A2：改善に取り組み始めた

成績評価及び単位認定については大学院学則等で全学的なルールを設定するとともに、学位授与の状況の適切性について専攻として点検を行い、教学マネジメント委員会に報告している。また、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である専攻長から、同組織に専攻の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。なお、アセスメントプランの見直しに向けて、学習者の評価方法については引き続き検討する必要がある、前年度

に引き続き今年度も A2 の評価とした。【研究科共通】

5.6 学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表ができていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

学位授与方針と学位論文審査基準を院生に明示し、かつ修士学位論文作成の手引きやホームページにおいて公表している。

5.7 学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置を講じていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

学位論文発表会（最終試験）及び口頭試問審査意見の機会を設けており、いずれも指導教員以外の複数の教員が参加している。これらの結果と教務委員会による取得単位の確認とを合わせて、最終的に研究科委員会で判定を行い、学位審査及び修了認定の客観性と厳格性を確保している。【研究科共通】

5.8 学位授与に係る責任体制及び手続を明示していますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

事前に公表している手続と日程に添って院生に修士論文の提出を求め、指導教員が副査、他の教員が主査・副査となって審査を行っており、学位授与に係る責任体制及び手続きを明示している。【研究科共通】

5.9 適切に学位を授与していますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

学位授与方針を明示するとともに、単位の取得状況、修士学位論文の審査と口頭試問の結果に基づいて、研究科委員会による審議を行って学位の授与を決定している。【研究科共通】

5.10 学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

5.1 から 5.9 に示した通り、全学的なルールに沿った単位認定や成績評価、学位論文審査及び修了認定を適切に行うための措置、「学位授与規程」に沿った適切な学位授与のための措置を専攻として行っており、適切な成績評価、単位認定及び学位授与について概ね効果的に取り組んでいる。また、運営戦略会議の構成員を含む教授のみの研究科委員会で学位授与の判定をしており、学位授与規程改正の必要がある時には、教学マネジメント委員会から研究科委員会に問題提起し、各専攻の意見を集約して決定していくこととしている。加えて、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である専攻長から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得るとともに、教学マネジメント委員会にて本報告書を報告し、全学内部質保証推進組織等と関わっている。【研究科共通】

6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

6.1 各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定をしていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

教学マネジメント委員会が設定した指標（アセスメントプラン）等を学習成果測定の指標として活用し、学修成果を把握している。また、本専攻の特性に応じた学位授与方針および論文審査基準、特別研究Ⅰ・Ⅱの評価基準を定めている。

※教学マネジメント委員会が設定した指標（アセスメントプラン）：学位プログラムとしての単位取得状況、特別研究の成績、授業評価アンケート結果、GPA 評価、DP アンケートおよびカリキュラム・学習環境等評価アンケートの結果

6.2 6.1 の設定に基づき評価するための方法を開発していますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A2：改善に取り組み始めた

全学的な取り決めにに基づき、DP に関する学習成果の把握・評価につなげている。加えて、個別授業での受講者が取り組んだ課題や研究の進捗状況を通じて、個別の教員が学習成果を把握するよう努めている。大学院の授業は少人数で行い、教員は日常的に院生の学習成果を把握し、助言やフィードバックを随時行っている。また、修士論文中間発表会および修士学位論文発表会での研究発表は、学習成果を専攻として把握し、院生らの到達度

を評価できる方法となっている。他にも、学部の実習等で修了生の就職先とも密に関わり、そこで得られた現場での意見等についても専攻内で共有している。今年度は、複数人の履修者がいる科目については、授業評価アンケートを評価するとともに、DP の達成度や授業の改善につながる院生からの意見を聴取し、授業内容の改善に努めた。

一方で、修了後の評価も含めて、現在の評価が最適とは考えておらず、客観的な評価指標や方法については R3 カリ・評価改善グループ等で検討を続けていることから、前年度に引き続き今年度も A2 の評価とした。

※全学的な取り決め：教学マネジメントが学位授与方針に明示した学習成果の把握及び評価のためのアセスメントプランを設定しており、DP に関する学習成果に関するデータや修了生自身に対するアンケートを実施している。

6.3 学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

学位授与方針に明示した院生の学習成果の適切な把握及び評価できるように教学マネジメント委員会が設定したアセスメントプランに基づき、専攻として学修成果の可視化について分析を行った上で、同委員会に分析報告書および自己点検報告書にて報告している。教学マネジメント委員会は専攻に課題がある場合は指摘を行い、改善を求めている。専攻は指摘を受けた課題について専攻内で検討し、自己点検報告書として専攻長から報告している。また、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である専攻長から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。【研究科共通】

7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

7.1 学習成果の測定結果を適切に活用し、適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1：従来通り効果的に取り組むことができた

教学マネジメント委員会から提供された学修成果・教育レポートおよび授業評価アンケート結果について、専攻がその結果を活用して定期的な点検・評価を行い、学修成果や教育成果の自己点検・評価報告書や本報告書で報告している。また、研究科委員会を概ね毎月開催し、教育課程およびその内容、方法の適切性を点検・評価している。これらの点

検・評価結果を踏まえて、次年度の開設科目、教育内容・方法等について検討し、研究科委員会で審議している。加えて、今年度は授業内容に関して、DP の達成に向けて、院生・教員・教育協力者間のディスカッションによる学習テーマの理解・問題解決の機会を積極的にとるなど、授業内容の強化等を図った。

## 7.2 点検・評価結果に基づく改善・向上を行っていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1 : 従来通り効果的に取り組むことができた  
(一部、A2 : 改善に取り組み始めた)

7.1 での学習成果の測定結果を適切に活用し、適切な根拠による定期的な点検・評価に基づき、専攻として検討や各担当教員が授業改善・向上に努めている。また、専攻の取組みとして、院生の学習効果に貢献した指導方法等を専攻内教員で共有する機会を引き続き設けた。今年度は、教学マネジメント委員会からの提案を基に、複数人の履修者がいる科目については、授業評価アンケートを令和5年度分と合わせて分析し、DP 達成度を評価するとともに院生から意見を募り、授業の改善・向上を行った。

## 8 学生の受け入れについて評価や必要な取り組みを行っているか。

### 8.1 DP の修得に相応しい入学者の確保ができていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A2 : 改善に取り組み始めた

2023 年度は、就職進路 100%、留年率 0%、卒業時 GPA の平均 3.02 と、2019～2022 年度と概ね同様に良好な数値を示しており、DP の修得に相応しい入学者を確保できている。4 月 1 日時点の入学定員充足率は 1.20、収容定員充足率は 1.00 でいずれも適切である。一方で、2 年間満たせていなかった入学定員を今年度は充足できたものの、令和7年度入学生は再び定員を 1 名下回る状況である。次項 8.2 の学生受け入れに関する選抜制度の評価・検討と併せて、学生の受入れ対象を拡げつつ、引き続き入学者の確保に努めていく。令和8年度入学生の入学定員充足のため、さらなる取り組みが必要と考え、前年度に引き続き今年度も A2 の評価とした。

### 8.2 学生の受け入れに関する選抜制度について評価・検討をしていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1 : 従来通り効果的に取り組むことができた

教育理念の見直しに基づき、令和8年度入学生から適用されるAPについても見直しを行った。また、入学志願者の充足に向けて、APとの関連を確認しながら学生の受験資格の見直しや選抜制度の見直しを行った。加えて、あらたに院生募集のオープンキャンパスを開催し、周知を強化し、学部生へのPRについても積極的に行うことを検討した。また、社会人学生の学習しやすい環境づくりについて評価や検討を行い、次年度からオンライン授業を本格的導入することを決定した。これらの改善を進めたことから、昨年度のA2から今年度はA1と評価した。

## (2) 教学マネジメント委員会から示された改善課題に対する対応状況

教学マネジメント委員会から示された改善課題「学位プログラム責任者主導による学修成果・教育の可視化の結果等を用いた学位プログラム単位での検証等の仕組みの強化」に対して、専攻における検証の仕組みとして、専攻にIR・評価委員会、R3カリ・改善グループを再編した。学位プログラムの教育に関する分析や自己点検・評価について、2024年版学修成果・教育成果データを基に、各領域単位で読み取りした結果をIR・評価委員会が集約し、分析評価報告書として、専攻長から教学マネジメント委員会へ提出した。また、分析評価報告書を基にして、シラバスや授業の改善に取り組むことについて依頼した。

## (3) 長所・特色（学修成果の可視化に関するIRの結果を含むこと）

2023年度は、就職進路100%、留年率0%と2019～2022年度と同様に全国的な状況から見ても好ましい結果で推移している。卒業時のGPAは3.02で、過去4年間と比較しても高い水準であり、学位プログラムとしての教育の目標は概ね達成され、学びの質が担保されていると考えられる。また、全学的な取り決めに基づき、全専任教員が参加する修士論文研究計画発表会、修士論文中間発表会を設け、当計画発表会で各々の大学院生の研究構想に対してその方向性に関する多面的な助言や指摘を行うとともに、当中間発表会で研究の掘り下げ方を助言・指摘することにより、修士論文の執筆を計画的・段階的に進めさせていく体制が整っている。また、主指導教員の他に副指導教員を配置することを基本としており、複数人によって成績評価に関して担保するとともに、長期履修制度を利用する院生が多い本専攻の状況を考慮して、リサーチワークの間隔については、院生と綿密に話し合いながら実施している。

## (4) 課題・問題点（学修成果の可視化に関するIRの結果を含むこと）

教育課程や学習成果に関わる措置については、専攻として概ね効果的に取り組めており、大きな課題はないと言える。教学マネジメント委員会からの助言を基に、複数人の履修者がいる科目は、授業評価アンケートを分析し、DPPに関する院生の学習成果の把握と評価を行ったが、さらに適切な評価方法を引き続き検討していく。また、修了後の学術集

会での発表や学会雑誌への投稿の割合を達成してきた。一方で、コロナ対策に従事していた影響で修了後 1 年以内の発表や公表がまだできていない修了生もいることから、速やかな研究成果の公表について、在学時から修了後の発表や公表について教員から院生に対して引き続き促しをしていく必要がある。加えて、今年度充足した定員が、令和 7 年度は再び定員割れをすることから、DP の修得に相応しい入学者の確保に向けて、学習のしやすさや広報等をさらに強化する必要があると考えられる。次年度からオンライン授業を本格的導入することを決定したが、対面授業と比較したメリット・デメリットや院生の受け入れについても評価し、改善につなげていく必要がある。

## 医療技術科学専攻 自己点検報告書

### 令和 6 年度 医療技術科学専攻 自己点検報告書

点検項目に対して、回答欄「はい・いいえ」のうち、該当するものを選択する。  
回答欄「S・A1・A2・B」は、今年度を中心とした取り組みに該当するものを選択し、取り組みの具体的な内容等について記入する。  
※注 「S・A1・A2・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A1：従来通り効果的に取り組むことができた、A2：改善に取り組み始めた、B：改善することができなかった。」を意味する。

#### 教育課程・学習成果・学生の受け入れ

##### (1) 点検・評価項目における現状

1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1 学科として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

☒ はい・いいえ

2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

2.1 教育課程の体系、教育内容を備えた教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

☒ はい・いいえ

2.2 教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

☒ はい・いいえ



2.3 教育理念、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と連関性の検証プロセスを具体的に説明してください。

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

教育理念、学位授与方針（DP）の達成、教育課程の編成の適切性評価については、教学マネジメント委員会から提出された学修成果・教育成果データを検証の根拠とし DP 伸長度/達成度を評価している。分析結果は、分析報告書として医療技術科学専攻長から教学マネジメント委員会に提出している。アンケートの対象者が少ないため、数年まとめた結果を分析し、課題を検討する予定としており、課題については改善を目指す。また、大学レベルにおいても、教学マネジメント委員会において、全ての学位プログラムの3つのポリシーの適切性、連関性を3つのポリシーの策定、見直しの方針に従って検証がなされている。

3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.1 学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

1 年次教育に、地域の保健医療に係る諸現象や他職種を理解し、視野の広い判断能力・指導力・管理力・教育力等の基盤修得できるように、生涯教育学特論、保健医療統計解析、疾病制御学特論等の共通科目を設けている。また、専門分野や特別研究を深く学習するにあたり、医療技術科学としての共通学修科目を設定している。さらに、分子細胞生物学、遺伝子検査学、感染制御学、病理細胞診検査学、生体防御学、生体機能検査学、病態情報解析、血液病態検査学の各専門領域の内容理解を深化できるように科目を配置している。令和5年度から設置された感染症専門検査技師プログラムコースと細胞診検査学習支援プログラムコースにおいても、適切な科目内容の見直しや他施設での実務研修等を行った結果、在学中の細胞検査士資格取得や感染症に関わる専門知識・技術修得できるようにしている。

※在学中に細胞診検査学習支援プログラムコースの学生2名が第57回細胞検査士資格認定試験（日本臨床細胞学会認定資格）で資格取得した。

3.2 学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

---

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

修士としての能力育成の観点から、共通科目、専門共通と専門分野からなる専門科目を1年次に配置している。また、DPに示されている能力育成については、その要素を各種科目に配置するとともに、1年次の特別研究Ⅰにて論文研究計画発表、2年次の特別研究Ⅱにて論文発表会を実施するなど、段階的に学修を積み重ね、専攻する専門分野の学修の集大成として特別研究により発展させ、修士学位論文の作成へとつながるカリキュラムを編成している。【研究科共通】

3.3 授業期間の適切な設定がされていますか。

☒ はい

・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

大学院学則第10条および愛媛県立医療技術大学授業時限、授業時間及び授業期間を定める規程に基づき、実施している。

3.4 単位制度の趣旨に沿った単位の設定がされていますか。

☒ はい

・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な学びに要する時間として単位を設定するとともに、単位及びその修得について明示している。【研究科共通】

※全学的な取り決め：大学設置基準第21条を準用することとなっているため、本学も、講義1単位15時間、演習1単位30時間を原則としている。

3.5 個々の授業科目の内容及び方法が設定されていますか。

☒ はい

・ ☐ いいえ

A2: 改善に取り組み始めた

毎年度、個々の授業科目の内容及び方法について見直しを行い、シラバスに授業科目の内容及び方法を明示している。令和6年度よりDP評価および授業評価アンケート結果をもとに、更なる改善を目指して取り組んでいる。

3.6 授業科目の位置づけ（必修、選択等）が適切ですか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

DPを達成するために次の3つのこと、「臨床検査学を発展的に実践できる、様々な実践の場におけるリーダーまたは管理者としての能力の醸成や科学的な探求方法や態度を身につけられる、保健医療分野に関しての広い見識をもてる」が実践できるよう、専攻のAP、CPとの関連を位置付けたうえで、授業科目の位置づけを行っている。

3.7 各学位課程にふさわしい教育内容の設定がなされていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻では、看護学専攻との共通科目の医療情報や医療倫理、保健医療に関する科目のほか、医療技術科学の専門共通科目として、臨床検査技術学特論、医療技術科学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、感染症学特論を1年次に配置し、専門分野や特別研究を極めるうえで基盤となる科目を学修できるようにしている。続いて、専門領域ごとに特論・演習を配し、ひとつの専門領域を系統的に深め、特別研究につなげていけるように設定されている。

3.8 コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等ができていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻では、全学的な取り組みに添って、リサーチワークとしての修士論文の作成に重きをおき、指導教員による授業内外での個別指導に加えて、「修士学位論文研究計画発表会」「修士学位論文中間報告会」等を通じて、学生の調査・研究能力の向上を図っている。また、本専攻には社会人学生に加えて職を有しない学生も混在することから、それぞれの状況を考慮して、リサーチワークの間隔については、学生と話し合いながら実施している。

※全学的な取り組み：授業科目のナンバリングを通して各授業の性格を可視化することによって、個々の学生がリサーチワークとも連動させながら、主体的なコースワークを選択し、研究能力を段階的に高めていくことができるように工夫している。「研究指導計画」を策定し、標準在籍期間におけるコースワーク・リサーチワークの大枠を明示している。

3.9 教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

3.1 から 3.8 に示しているように、教育理念、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と連関性、カリキュラムの順次性・体系性の確保、授業科目の内容及び方法の設定、授業科目の位置づけ（必修、選択等）の適切性、各学位課程にふさわしい教育内容の設定等、医療技術科学専攻に相応しい内容で実施できていると評価しており、効果的に取り組んでいる。教育に関する内部質保証を担っている教学マネジメント委員会に本報告書を提出し、課題を指摘された場合には、専攻科内で検討し、改善点等を報告している。また、令和 6 年度からは教学評価委員会を設置し、専攻内での検討課題について分析・改善を進めている。また、教学マネジメント委員会の構成員である学科長は、同組織からの課題を受けて専攻に報告し、改善に努め、またその結果を教学マネジメント委員会に報告し、必要な支援を得ている。

3.10 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に

提供されていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻の方針に則って、共通科目、専門科目を通じてこれらの能力育成を自身で考える機会を提供している。また、卒業後に、学会発表や論文投稿の協力等も行い、継続的に学究的態度を持ち続けられるような場を提供している。

※医療技術科学専攻の方針：修了後にも実践の場においてリーダーまたは管理者、教育者として個人や集団を動かす力を身につけること、臨床検査の質の向上に向けて問題意識を持ち、科学的に追求していく方法や態度を身につけられる。

4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

4.1 各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置がされていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻では、自主学習を促す授業の実施、シラバスで明示した授業目標達成を図る成績評価を行っている。また、授業の評価とFDについては、学生による授業評価の実施を行うとともに、教員から学生への自主学習を促すための課題の提示と確認を行

い、単位の実質化を図るための措置をしている。

4.2 シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等）についての措置を講じていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A2: 改善に取り組み始めた

教務委員会によって設定されたシラバス内容を遵守するとともに、授業内容とシラバスとの齟齬がないように各専門分野内で確認しながら実施している。また、学期末に実施される授業評価アンケートの結果を各担当教員が精査して確認している。さらに令和6年度から、学修成果・教育成果データや各科目の授業評価およびDP アンケートを基に授業内容とシラバスの見直しをはじめた。

4.3 授業の内容、方法等を変更する場合における適切なシラバス改訂と学生への周知をしていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻では、社会人学生がいる本専攻の状況にも配慮し、学生の学修状況に応じて、DP 等が達成できるように授業の内容や方法を変更する場合は、必ず学生に対して改訂したシラバスを周知している。

4.4 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法が講じられていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻では、授業形態に課題提示を行い、この課題をプレゼンテーションしてもらいながら、議論する機会を多く設けている。また、学生が主体的に学修できるように、事前資料を渡しての反転授業、グループ/個人による文献のクリティークなどを取り入れ、教員と学生間、学生同士でのコミュニケーションを図りながら学習できるようにしている。

4.5 学習の進捗と学生の理解度の確認をしていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻では、適切に学習が進捗するように授業計画を立て、各授業で学習内容のフィードバックや学生からの質問を対面やメールで対応することで学生の理解度の確認を行っている。また、学生からは随時質問を受け付けるように対応している。

4.6 授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導をしていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

入学前に 1 年次生対象のオリエンテーションを行い、大学での学び、カリキュラムの特徴や成り立ち、DP の説明などについてガイダンスを実施している。また、修了生による学習時間の使い方などの紹介を行い、具体的にイメージしやすいように支援を行っている。科目履修については、指導教員が大学院生の研究テーマや能力を見極めながら、院生のニーズに対応し指導を行っている。社会人学生に対しては、大学院設置基準第 14 条特例を適応し、夜間や土・日曜日の授業を実施している。

4.7 授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示をしていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

各講義に関しては、シラバスに予習および復習に必要な標準時間を示し、授業時間外にどのような学習をするかも明示して、学生の理解度を確認しながら指導を行っている。また、具体的な質問に対して随時フィードバックを行い、演習や事前課題に対して、授業時内外にメール等でも対応しながら学生の学びのフィードバックを行っている。社会人学生についても、仕事の状況も考慮しながら、課題が過重となっていないか確認しながら実施している。

4.8 研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示とそれに基づく研究指導の実施をしていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1： 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻では、全学的な取り決めに従って指導している。また、論文研究計画発表会においては関連領域を含む教員が院生に対組織的かつ多面的な助言を行うなどして、研究指導にあたる機会も設けている。論文中間発表会では、修了学年以外も参加し次年度に取り組むべき作業への具体的なイメージや論文執筆の要領を学べる機会を設け、全般的な指導に役立てている。論文中間発表会と発表会では、論文の内容を多数の教員で論評することによって、その質を高める効果を期待しており、効果はあがっている。

※全学的な取り決め：修士学位論文作成の手引き（研究指導計画及びスケジュール）にて、指導教員が個々の院生の能力や状況に応じた研究・学位論文執筆の個別指導計画書作成することを定めている。

4.9 各専攻における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり（教育の実施内容・状況の把握等）ができていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

4.1 から 4.8 で示したように、学位課程の特性に応じた単位の実質化、シラバスに従った内容の実施、適切なシラバス改訂と学生への周知、主体的参加を促す授業形態・授業内容及び授業方法や、教育の目標を達成するための授業の履修に関する指導、学生の学習の進捗と理解度の確認、その他効果的な学習のための指導や量的・質的に適当な学習課題の提示等について、適切かつ効果的に実施されていると評価している。これらのことは、教学マネジメント委員会に報告し、課題があれば、指摘を受け改善が求められるようになっている。その課題は、専攻で検討し、改善した結果を本報告書で報告している。また、学修成果・教育成果データに基づいて、分析を行い、専攻長から教学マネジメント委員会に分析評価報告書として報告し、全学内部質保証推進組織と連携している。

5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

5.1 単位制度の趣旨に基づく単位認定をしていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

各科目の成績評価は大学院学則第 26 条、27 条に定めており、担当教員の責任で行われている。成績評価の方法と基準はシラバスに明示されており、それらに従って講義や演習など授業形態に応じてレポートなどの結果で成績評価が行われている。【研究科共通】

5.2 既修得単位等の適切な認定をしていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

大学院学則第 29 条に定めている通り、他大学等での既修得単位については、科目責任者や教務委員会による審議のもと、本学科の学習目的を達成している場合は認定を行うしくみを整えているが、これまで該当例はない。【研究科共通】

5.3 成績評価の客観性、厳格性、公正性を担保するための措置は講じていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

成績評価の方法と基準はシラバスに明示されており、それらに従って講義や演習など授業形態に応じて授業参加やレポートなどの結果で成績評価が行われている。論文作成にあたっては、本専攻は主指導教員の他に副指導教員を配置することを基本としており、複数人によって成績評価に関して担保している。令和 3 年度からの新カリキュラムでは特別研究Ⅰ・Ⅱの評価基準を詳細に定め、より客観性・公正性を担保した。また、教学マネジメント委員会が学修成果・教育成果データに専攻別 GPA 集計表を提示し、各教員はそれに基づいて自分の担当授業の成績評価を客観性、厳格性、公正性を担保するために検証している。【研究科共通】

5.4 修了要件を明示していますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

修了要件は大学院学則第 37 条に明示されており、医療技術科学専攻では、全学的な取り組みに添って、各学年次の開始時に学生生活の手引きを学生に配布し、卒業・修了要件を口頭でもガイダンスを行っている。学位授与方針を念頭に置いて、指導教員による日常的な個別指導を周到に行うとともに、論文発表会における指導によって学位論文および最終試験の審査基準を院生に周知させ、十分かつ具体的な理解が行きわたるよう適切に指導している。【研究科共通】

5.5 成績評価及び単位認定に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ



A2: 改善に取り組み始めた

成績評価及び単位認定を適切に行うための措置について、大学院学則等で設定するとともに学位授与の適切性について、専攻で点検し教学マネジメント委員会に報告している。また、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である専攻長から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。今後、アセスメントプランに含めるために、学習者の評価方法については引き続き検討していく。【研究科共通】

5.6 学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表ができていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

医療技術科学専攻では、全学的な取り組みに添って、学生に対して学位授与方針と学位論文審査基準の明示と公表を行っている。

5.7 学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置を講じていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

学位論文発表会（最終試験）及び口頭試問審査意見の機会を設けており、いずれも指導教員以外の複数の教員が参加している。これらの結果と教務委員会による取得単位の確認とを合わせて、最終的に研究科委員会で判定することで、学位審査及び修了認定の客観性と厳格性を確保している。【研究科共通】

5.8 学位授与に係る責任体制及び手続を明示していますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

あらかじめ公表されている手続と日程にそって院生に修士論文を提出させ、指導教員が副査、他の教員が主査・副査となって審査を行っており、学位に授与に係る責任体制及び手続きを明示している。【研究科共通】

5.9 適切に学位を授与していますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

学位授与方針を明示するとともに、学位請求論文の査読と口頭試問の結果に基づいて、教員による審議を行って学位の授与を決定している。【研究科共通】

5.10 学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

5.1 から 5.9 で示しているように、大学院学則に定めた単位認定や成績評価、学位論文審査及び修了認定を適切に行うための措置、学位授与を適切に行うための措置について「学位授与規程」に添って実施しており、適切に行っている。また、学位授与の判定は運営戦略会議の構成員を含む教授のみの研究科委員会で実施されている。同規程の改正の必要がある時には教学マネジメント委員会から研究科委員会に問題提起し、各専攻の意見を集約して決定していくこととしている。また、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である専攻長から、同組織に専攻の状況を直接報告し、必要な支援を得るとともに、教学マネジメント委員会に本報告書を提出し、全学内部質保証推進組織等と関わっている。【研究科共通】

6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

6.1 各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定をしていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

学習成果を測定するための指標として、教学マネジメント委員会が設定したアセスメントプランを活用している。また、医療技術科学専攻の特性に応じた学位授与方針および論文審査基準、特別研究Ⅰ・Ⅱの評価基準を定めている。また、修了後の研究活動や卒後の活躍についても把握するようにしている。

※教学マネジメント委員会が設定したアセスメントプラン：新入生アンケート、授業評価アンケート結果、学位プログラムとしての単位取得状況、GPA 評価、DP アンケート、特別研究の評価、カリキュラム・学修環境等評価アンケート

6.2 6.1 の設定に基づき評価するための方法を開発していますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A2: 改善を目指して取り組み始めた

医療技術科学専攻では、全学的な取り決めに添って、各 DP 関連科目の GPA、DP アンケート（各授業・年間・修了時）を学習成果の把握・評価に活用している。また、各科目においては個別授業で受講者が行う課題や報告を通じて、個別に学習成果を把握するよう努めている。大学院の授業は少人数のものが多いため、教員は日常的に院生の学習成果を把握し、助言やフィードバックを随時行っている。これに加えて、論文中間発表会および論文発表会での研究発表は、学習成果を専攻として把握し、院生らの到達度を評価できる方法となっている。他にも、ホームカミングデーで修了生が大学院で学べたことや活躍に生かされていること等を聞く機会を設けたりしている。しかし、修了生が少ないこともあり、客観的な評価指標については検討を始めた。

※学修成果の客観的な評価指標：感染症専門検査技師プログラムコースや細胞診検査学習支援プログラムコース修了生には、卒業時のアンケートを実施予定である。

6.3 学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

教学マネジメント委員会が設定したアセスメントプランに基づき、IR データの提供を受け、これらの結果の分析を行い、同委員会に分析報告書にて専攻内で検討したことを報告している。

教学マネジメント委員会は専攻に検討課題を指摘し、改善するように求めている。これを受けて専攻では、検討・改善について自己点検報告書として専攻長から教学マネジメント委員会に報告している。また、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である専攻長から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。【研究科共通】

7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

7.1 学習成果の測定結果を適切に活用し、適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

教学マネジメント委員会が設定したアセスメントプランに基づいてまとめられた学修成果・教育成果データおよび授業評価アンケート結果を用い、学修成果について定期的に点検し、教学マネジメント委員会に分析報告書や本報告書で報告している。また、研究科委員会をほぼ毎月開催し、教育課程およびその内容、方法の適切性を点検・評価している。この点検・評価結果を踏まえて、次年度の開設科目、教育内容・方法等について検討を行い、研究科委員会で審議を行っている。

7.2 点検・評価結果に基づく改善・向上を行っていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A1: 従来通り効果的に取り組むことができた

7.1で行った結果を活用し、定期的に各担当教員主導で授業改善・向上に努めている。また、専攻の取組みとして、学生の学習効果や資質に合わせた指導方法等を専攻内教員で共有するようにしている。

8 学生受け入れについて評価や必要な取り組みを行っているか。

8.1 DP の修得に相応しい入学者の確保ができていますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A2: 改善に取り組み始めた

2023 年度の卒業時 GPA の平均は学生数が少ないため非公開であるが、医療技術学専攻全体の GPA の平均は 3.63 と高く、退学率・留年率は 0 % と良好な結果であり、DP 修得に相応しい入学生が確保できている。これまでに定員割れの状況が続き、入学生の確保が十分できていない年度があったが、4 月 1 日時点の入学定員充足率は 1.33、収容定員充足率は 1.50 でいずれも適切である。また、入学定員数が少ないことや定員割れの影響もあったため、DP の修得の評価が難しい状況であったが、令和 4 年度からオープンキャンパスを積極的に実施し、令和 5 年度及び令和 6 年度は定員以上の入学生の確保ができ、成果として表れている。今後も引き続き入学生の確保に努めていくためにオンライン教育も取り組んでいく予定である。

8.2 学生の受け入れに関する選抜制度について評価・検討していますか。

☒ はい ・ ☐ いいえ

A2: 改善に取り組み始めた

入学生の確保が十分できていない年度があったことや、時代の変化に合わせて幅広く

研究を推進していくことの重要性から、受験資格要件の見直しを行い、臨床検査技師免許を有しなくても受験できるように検討し、それに合わせたアドミッションポリシーの修正と選抜制度の変更をおこない、令和8年度から施行することとした。

#### (2) 教学マネジメント委員会から示された改善課題に対しての対応状況

教学マネジメント委員会からの改善課題「学位プログラムの責任者主導による学修成果・教育の可視化の結果等を用いた学位プログラム単位での検証等の仕組みの強化」に対し、令和6年度より教学評価委員会を中心に取り組んでいる。学位プログラムの教育評価・点検については、2024年度学修成果・教育成果データをもとに、専攻内で共有・分析し、分析報告書として専攻長から教学マネジメント委員会に報告した。また、各教員担当科目のDPアンケートをもとにシラバスや授業内容の改善に取り組むように依頼した。

#### (3) 長所・特色（学修成果の可視化に関する IR の結果を含むこと）

2023年度の卒業時 GPA の平均は1名で非公開のため評価が出来なかったが、医療技術学専攻全体の GPA の平均は3.63と高く、退学率・留年率は0%、また、過去5年間の GP 分布は「優」以上がほぼ100%で良好な結果であった。「秀」も年々増加しており、2023年度では5割を超えたが、学生数が少ないため、多面的な学習成果の可視化を検討する必要がある。令和5年度より始まった感染症専門検査技師養成プログラムコースや細胞診検査学習支援プログラムコースにおいても継続して学生を確保している。細胞診検査学習支援プログラムコースでは、受講生2名とも細胞検査士資格認定試験に合格するとともに、積極的な学会発表を行っており、学位プログラムの教育理念達成のために、新たな内容を加えた指導が効果的であったといえる。今年度中にプログラムの学習成果を可視化するために、それぞれのプログラムに即したアンケートを実施し評価をおこなう予定である。

これまで社会人学生の長期履修者が多かった状況に一般学生も増え、学習背景の異なる学生へ学修成果については、今後の推移をみていく必要がある。また、全専任教員が参加する論文研究計画発表会、論文中間発表会の場を設けており、中間発表会で研究の掘り下げ方を助言・指摘することにより、論文の執筆を計画的・段階的に進めさせていく体制を整えている。

#### (4) 課題・問題点

これまでの教育課程やその内容、方法の適切性について、専攻として効果的に取り組んでいる。修了後の学術集会での発表や学会雑誌への投稿の割合が高まってきており、令和

5年度より在学中に成果を発表した院生もみられ、研究成果の公表について今後も引き続き進めていく。これまで医療技術科学専攻は、定員3名を充足していない年度もあったが、令和3年度のカリキュラム改正に続いて、令和5年度にも一部改正し、感染症専門検査技師プログラムコースや細胞診検査学習支援プログラムコースを取り入れて以降、継続して入学定員を満たしている。今年度には幅広い分野から入学できるように検討し、魅力ある教育課程の更なる検討やオンライン授業等、引き続き入学生確保のための取り組む予定である。入学定員が少ないことに加え、これまでの入学生が少ないこともあり、教育課程の客観的評価が十分でないことが引き続いての課題である。また、医療技術科学専攻のDPアンケートの回収率は0.0～16.7%と非常に低く、正確な学修成果・教育成果を評価するために今後も学生にDPの重要性を理解してもらう必要がある。学修成果・教育成果とともに適切にかつ継続的に評価していく必要がある。

---

#### 教育研究環境等整備・学生支援・社会貢献・大学運営

学部と研究科を一体とした大学の学内組織が互いに円滑に連携を図りながら、教育研究環境等の整備や学生支援・社会貢献・大学運営を行っている。理事長を中心とする計画的かつ機動的な運営が図られ、外部資金の獲得に努めるとともに、経費削減等による余剰金を目的積立金として老朽化施設の改修や教育・研究機器の整備などに充て、必要な経費の効率的、効果的な執行を図っている。

研究科に関連する教育研究環境の整備としては、大学院生室の整備を継続して行っている他、自主的学修支援のための図書館機能の充実（平日夜間及び土曜日の開館時間の延長、日曜日・祝日の開館日の拡大、文献検索システム・電子ジャーナルの利用方法に関する研修の実施、自宅等学外からの文献情報へのアクセス整備、ネット上から貸出資料の予約・文献取り寄せ依頼対応、データベースや電子ジャーナルの自宅利用対応等）を継続して行い、大学院学生の利便性の向上に努めている。

学生支援は学生委員会を中心とする全学的な取り組みの他に、研究指導教員が履修指導や生活上の相談にも応じている。就業していない学生には奨学金紹介やアルバイト紹介なども積極的に情報提供している。

社会貢献では、研究科独自の取り組みはないが、地域交流センターが窓口となった活動にそれぞれの専門性も活かしながら取り組んでいる。具体的な自己点検・評価報告は、毎年「地域交流センター報告書」に記している。

#### 質の向上に向けた取り組み

教育、学生支援、研究、社会貢献については、研究科教員は全員が学部と兼任しているため、学部と共通して様々な取り組みを行なっている。

研究科・看護学専攻・医療技術科学専攻いずれも学生の受け入れ方針に従って公正な入試制度の下に学生の受け入れを行っているが、入学定員充足率、収容定員充足率は大学基準を満たしているものの医療技術科学は 2019 年の単年度ではあるものの、収容定員充足率が大学基準を下回り 0.33 となっていた。この改善を図るため、医療技術科学専攻に新たなコースを設けるなどの受験生増の取り組みを専攻を中心に行い、2020 年度は 0.50、2021、2022 年度 0.83 と改善し、2023 年度には 1.5 となった。また、医療技術科学専攻においては、細胞診検査学習支援プログラムコース初年度の登録学生 2 名が、第 57 回細胞検査士資格認定試験（日本臨床細胞学会認定資格）に合格した。以上のように、入学定員充足率、収容定員充足率は大学基準を満たしており、教育課程も適切に展開された結果が研究科の教育レベルの維持に貢献できているものと考えられるが、今後も継続して社会から優れた人材を広く受け入れることを念頭に、令和 6 年度に研究科の受験資格変更や学生の受け入れ方針等の変更について検討を行い、令和 7 年度より新たな方針のもと入学生を受け入れる予定としている。